

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670101591
法人名	医療法人社団 緑愛会
事業所名	グループホーム 友結
訪問調査日	平成 21 年 3 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	670101591		
法人名	医療法人社団 緑愛会		
事業所名	グループホーム友結		
所在地 (電話番号)	山形県山形市桜田西1丁目13番9号 (電 話) 023 - 615 - 2201		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(平成21年 2月 4日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16 人, 非常勤 人, 常勤換算	12.6 人

(2)建物概要

建物形態	○併設 / 単独		新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月 4日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84.8 歳	最低 70 歳	最高 94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団悠愛会 大島医院 ホワイト歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人理念、事業所理念、年度目標、こやまケア10ヶ条、月間目標等をそれぞれ設定し、職員が一丸となって目標に向かい、より具体的なサービスの提供に日々努力をおしまない事業所です。今年度から事業所内の地域活動推進委員会による介護予防教室の開催、事業所夏祭りの案内、町内の盆踊りや清掃活動参加等、地域と積極的に関わりを持ち、利用者にとっても地域にとっても「欠く事のできない事業所」となるべき様々な取り組みをしている事業所です。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価に取り組み、評価の意義や目的を理解して協議し合い、反省、改善点は真摯に受け止め、理念を基に、より具体化した月間目標を設定し、日々のサービスに活かせるように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進委員会は、家族代表、町内会連合会長、町内会会長、地域包括支援センター長、民生児童委員、グループホーム管理者、事業所長等のメンバーで2ヶ月に一度開催され、日々のサービス内容や利用者の状況について報告され、テーマを基に話し合われている。会議内容と共に、緊急時や避難場所確保の協力等、具体的な取り組みに繋げている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 年2回家族アンケートの実施や、玄関には意見箱、ホールには顔写真入りの職員紹介を掲示し、家族等とは何でも言いやすい関係づくりや雰囲気づくりを心がけ、大切にしてホーム運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入しており、地区開催の盆踊りや道路や公園の草むしり等にも、利用者と共に積極的に参加している。事業所主催の介護予防教室、夏祭りには、回覧板やポスティング等で地域に呼びかけ、交流を図っている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を理解し、法人理念の他に事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所独自の理念の他に、職員の行動指針とした「こやまケア10ヶ条」を具体化した月間目標を玄関に掲げ朝礼、会議等で確認し合い、日々のサービスの中で実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地区開催の盆踊りや道路や公園の草むしり等にも、利用者と共に積極的に参加している。事業所主催の介護予防教室、夏祭りには、回覧板やポスティング等で地域に呼びかけ、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価に取り組み、評価の意義や目的を理解して協議し合い、反省、改善点は真摯に受け止め、理念を基に、より具体化した月間目標を設定し、日々のサービスに活かせるように取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、家族代表、町内会連合会長、町内会会長、地域包括支援センター長、民生児童委員、グループホーム管理者、事業所長等のメンバーで2ヶ月に一度開催され、日々のサービス内容や利用者の状況について報告され、テーマを基に話し合われている。会議内容と共に、緊急時や避難場所確保の協力等、具体的な取り組みに繋がっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者、地域包括支援センターとは、日頃より近況報告や情報交換を図り、介護相談員の受け入れもしており、関係作りに取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「グループホームだより」を発行し、家族等に郵送している。受診結果は必ず家族に電話報告し、利用者の近況報告、職員異動、金銭出納帳確認等、常に連絡を密に取るよう心掛けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族アンケートの実施や、玄関には意見箱、ホールには顔写真入りの職員紹介を掲示し、家族等とは何でも言いやすい関係づくりや雰囲気づくりを心がけ、大切にしてホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットやデイサービスとの合同の行事や催物を通じ、交流を常に行い、利用者同士、職員同士、全員が馴染みの関係になれるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県、市グループホーム連絡協議会主催の研修会に、職員が交替で積極的に参加し、情報を全員で共有している。また、法人内の研修会も多数あり、職員の交流、情報交換、技術向上、新人育成にも力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市グループホーム連絡協議会の定期的な会議や交換研修に参加し、活動を通じ交流を深め、サービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○ 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人を主役と考え、様々な場面で力を発揮してもらえるように職員は「黒子」になり、共に支えあう関係作りを築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は担当制をとっており、日々の関わりの中で、ちょっとした表情や変化に気づき、本人の思いや意向を把握することに心掛けており、個別支援の提供に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントを活用し、サービス担当者会議等で、一人ひとりの状態やサービス内容を確認しながら介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは月1回モニタリングを実施し、6ヶ月に1回行なっている。「24時間アセスメント」にて気づきや情報の声を大事にし、一日の生活状況を記録として残し、状態に変化が生じた場合は必要に応じて随時の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	基本的には協力医療機関の受診を行なっているが、か かりつけ医や専門医の受診ができるよう常に家族等と の連携を図り、職員は受診記録にて共有できるようにし ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	契約時に事業所の「看取り」に向けた方針を説明し、家 族等の同意を得ている。協力医療機関等や関係者全 体の方針の統一を図りながら、チームで支えていくこと を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	日々の関わりの中で、不安や不快な思いをさせないよ う、声掛け等に配慮し、記録等も事務所に保管されて いる。また、家族等には契約時「個人情報の利用目的」 の説明をし了承印を頂いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしの流れを「24時間アセスメント」で確認し、 一人ひとりの生活リズムを大切に、職員同士共有を図り ながら支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回個人毎に行なう「嗜好調査」を参考に意見を聞きながら献立を考えている。見た目や味覚等の五感を楽しみながら一日の食品群別摂取確認(バランスチェックシート)をきちんとされ、利用者の気持ちを大切に食事を楽しむものになっている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は事前に伺い、希望に合わせ柔軟な支援を行なっている。入浴を拒む人には声かけのタイミングや隣接する法人グループ(デイサービス)に出かけ温泉の気分を楽しんでもらう等入浴剤にも考慮し、くつろいで入浴できるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1ヶ月毎の「共同生活介護表」を作成し、一人ひとりの得意分野や楽しみごと、役割の場面作りに工夫し、誕生会や行事には家族等への参加を呼びかけ、マンネリにならないよう配慮している。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行きつけの床屋や近くの公園等に出かけ、外出の時は家族との連絡を取り、事故や他者との交流等に充分配慮し、安心して外出ができるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日頃より一人ひとりの行動パターンの把握に努め、状況の変化等を見逃さない関わりを職員全員で共有し、日中は鍵をかけないで「見守り」を大事にしている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震を想定した避難訓練を消防署の協力を得、年2回実施し、町内会等に回覧板などで呼びかけをしている。非常用に水と乾パン、防災グッズ、携帯ラジオ等を備えている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分の摂取量の確認チェックをし、バランスを考えた調理に心がけ、法人内の管理栄養士より専門的アドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間である食堂、浴室、トイレ等は常に清潔に心がけ、ホールからガラス張りのテラスが見え、日差しが心地よく、温かい家庭的な雰囲気の中で生活感や季節感を感じながら居心地良く過ごされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自分のネームや好みの暖簾を下げ、本人の使い慣れたタンスや置物等の愛用品を持ち込み、これまでの生活環境と変わりなく安心して過ごせるよう、職員は馴染みの関係作りに工夫している。		